

a 学校教育目標	よく学び 心豊かで 元気な子	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○確かな学力をつける学校○質の高い教職員を育てる学校○保護者・地域とともに歩み、信頼される学校
----------	----------------	----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価					改善方針	I 学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	確かな学力の向上を図る。	◎基礎・基本の定着を図る。 ○算数科を中心に言語活動を取り入れた単元構成の工夫と授業改善を行う。 ○繰り返し練習による学力の定着を図る。 ○帯タイムなどによる個別指導の徹底を図る。 ○辞書活用による語彙力を向上させる。	・【基礎・基本】定着状況調査において本校の通過率が県の通過率を上回る。 ・期末テスト(国語・算数)において75点以上をとらせる。 ・標準学力調査で全国平均を上回る児童の割合を70%以上にする。 ・国語辞書による語句調べにおいて、1年20、2年50、3年250、4年400、5年500、6年600以上調べ。	100%	国99% 算92% 理102%	国99% 算92% 理102%	国99% 算92% 理102%	B	・国語は71.0%(県71.8%)で、読むこと領域に課題がある。算数は71.7%(県78.0%)で分数・複合図形の面積・円の中心と半径に課題がある。理科は75.6%(県73.9%)で、方位磁針の使い方・金属の温度変化と生活との関連に課題がある。 ・期末テストの75点以上の児童の割合は、国語84%、算数88%という達成度であった。算数の考える力に課題がある。 ・標準学力調査は、全国平均を上回る児童の割合が80%以上である。しかし、正答率が全国平均を下回る教科もある。 ・3～6年生は、31人中30人が目標を達成している。1年生は辞書引きの基礎となる学習を繰り返したことで一人平均17語句ひけるようになった。2年生も日常的に語彙数を増やす取り組みをしたので平均55語句ひけるようになった。	・職員研修で、実際に基礎基本の問題を解き、児童のつまずきを分析している。各学年で系統的につまずきに対する指導を行っているようにする。 ・学びタイム・個別指導の時間を活用し、復習の時間が空かないようにする。 ・算数の考える力については、図を使った説明や動作化などを取り入れ、指導していくようにする。 ・「標準学力調査」の分析、課題把握に基づき、学びタイム・個別指導の時間や授業の中で計画的に指導する。 ・1、2年生は辞書引き学習に入るまでの準備段階に時間を多く使い丁寧な指導を行ってきた。来年度も児童の実態に応じた目標数を設定し全児童が達成できるようにしていく。	5/5			・先生の指導はよいと思う。成果が表れている。 ・児童は学習に懸命に取り組んでいるので良い。 ・船木小学校の児童の学力が上がっているとの情報がある。学校の取組の成果である。
豊かな心の育成	自然・人などの関わりを通して豊かな人間性を培う。	○「いじめ」の発生件数をゼロにする。 ○「挨拶」「返事」「靴そろえ」の定着を図る。	・「いじめ」の発生件数0 ・「挨拶」「返事」ができる児童の割合 ・「靴揃え」ができる児童の割合	100%	100%	100.0%	100.0%	A	・児童アンケートの結果及び担任教師からの聞き取り調査により、いじめの発生件数はなかった。 ・児童アンケートには悪口や無禮などの事例が挙げられていた。その対象児童に対して個々に担任から聞き取り調査を行った。 ・「船木小あいさつレベル」を設定し、児童会目標にも挨拶の向上を挙げて取り組むことにより、よりよい返事や挨拶の仕方が定着した。 ・靴揃えの大切さを指導し、担任による靴揃えの点検も行うことで、学校での靴揃えはほぼ定着してきた。 ・10月の児童アンケート調査と比較し、2月は達成率が下がっているのが課題である。	いじめの未然防止に向けて、常に児童の実態を把握し、問題解決にのぞむことを生徒指導部から働きかける。また、問題発生時は迅速な指導を行い、必要に応じて担任、管理職、生徒指導部を交え、組織的な対応や指導を行う。 ・あいさつレベルの向上を年間通じて取り組む。今後は、児童が自己の成長を見つめ、次なる目標が設定できるような視覚的な評価方法を検討していく。 ・家庭での靴揃えができていない児童がいるので、引き続き指導するとともに、保護者への啓発を行う。	4/5	1/5		・家庭での親子関係にも留意し、家庭と協力をしながら指導していかねばならない。 ・子どもの自然な発達を大切にしていけるようにしてほしい。 ・今年度は、地域でもよく挨拶ができていと思う。
健やかな体の育成	健やかな体づくりを推進する。	○体力・運動能力の向上を図る。	・柔軟性・瞬発力・走力において昨年より向上した児童の割合 ・体育科の授業でサーキットトレーニングを行った割合	80%	78%	69.6%	87.0%	B	・新体力テストの結果を参考にし、各学年の実態に合わせ、柔軟性・瞬発力・走力を向上させるための運動を体育科の授業にとり入れた。しかし、冬季の調査であったこともあり、体力向上の目標にした達成度を得ることができなかった。 ・船木小サーキットの方法を改善し、より達成度の分かりやすい内容にした。それにより、児童がサーキットに取り組む意欲が向上した。 ・各学年の児童実態に応じて体育科の授業にサーキットトレーニングを行った。また、教職員対象の体育研修会を開き、授業前のトレーニングの方法と効果、また、体育の授業の組み立て方について研修を行った。	・研修したことを参考にし、記録をさらに向上させ、よりよい体育科の授業を進めるために、体育科の授業の前に適切な準備運動を行い、学習内容に応じたゲームや運動を行う。 ・今後まなわとびのめあてカードとマラソンカードを全校で作成し、児童に具体的な数値目標を持たせる。 ・今回改善した船木小サーキットの効果进行分析し、さらなる改善点を研究していく。	5/5			・サーキットトレーニングを大切にしていほしい。 ・休憩時間に竹馬を楽しむようにしてほしい。友だちと楽しく運動ができることも大切だと思ふ。
信頼される学校	保護者の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する。	○情報を公開し、学校に対する理解度・信頼度を高める。	・ホームページの更新を月1回以上行う。 ・学校、学級だよりを月1回以上行う。 ・情報発信に関する保護者の肯定的評価。 ・服務研修を月1回以上実施する。	100%	100%	91.4%	100%	A	・ホームページの更新は計画通り進めることができた。学校だより、学級通信の発行については月1回以上行うことは学校だより100%、学級通信94.3%の達成率である。 ・情報発信に関する保護者の肯定的評価は、96.6%である。 ・不祥事防止研修については、月1回以上実施できている。不祥事防止研修について各部に研修の企画、運営を任せたので、主体的に参加することができるようになった。	・児童の成長やがんばりを伝えるとともに、課題について保護者の協力を得られるように啓発的な内容を入れた学級通信発行に取り組んだ。今後も学級通信の意義や効果を考え、内容の充実、積極的な発信、タイムリーな発信に努める。 ・今後、学校だよりを地域に回覧し、学校の取組についての理解や協力が得られるようになる。	5/5			・学校だよりの回覧は、楽しみだ。これからは、保護者や地域に学校の様子をしっかりと伝えてほしい。

【j:自己評価 評価】

A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100

C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【I:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。

ハ:分からない。

本年度の重点目標については◎印で示す。